

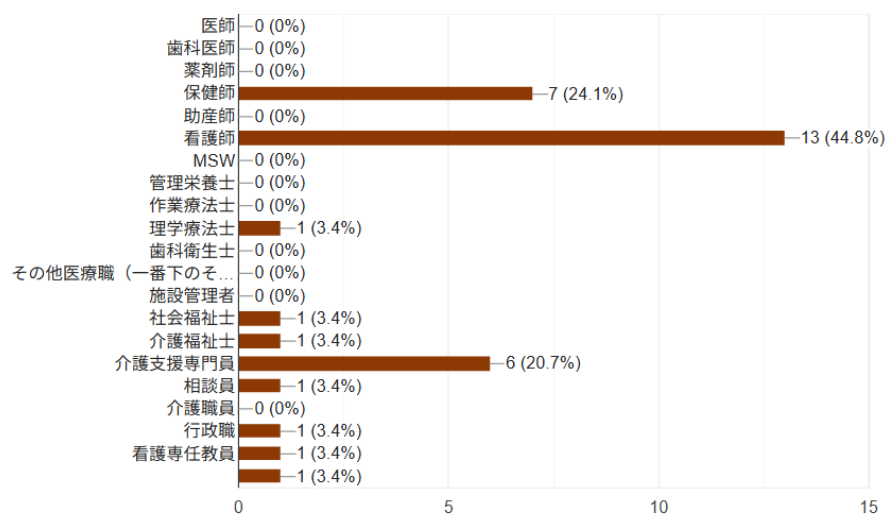
令和7年度 北空知地域ACP（人生会議）研修会アンケート結果

看護師	30
保健師	11
介護福祉士	4
社会福祉士	3
介護支援専門員	7
理学療法士	1
事務	1
生活相談員	2
看護教員	5
合計	64

職種（複数の職種を兼務している場合は、主な職種と「その他」にチェックし、従たる職種を「その他」に記入してください

[グラフをコピー](#)

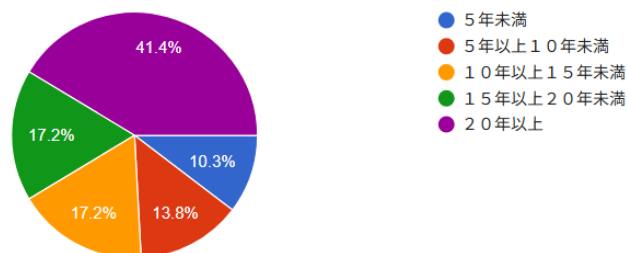
29 件の回答



経験年数

[グラフをコピー](#)

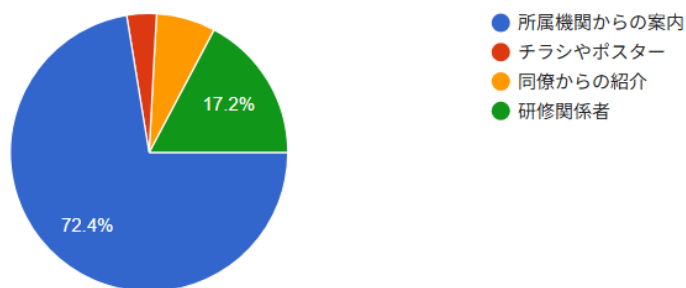
29 件の回答



今回の研修をどこで知りましたか

[グラフをコピー](#)

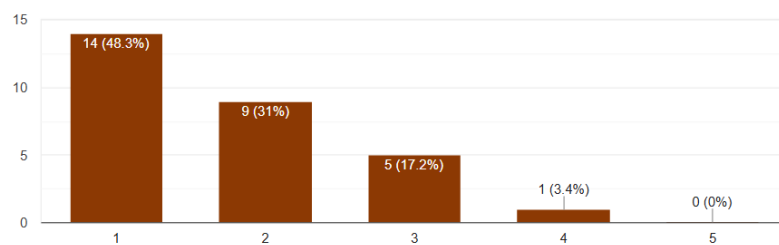
29 件の回答



研修会の内容は、期待していたものに沿っていました

[グラフをコピー](#)

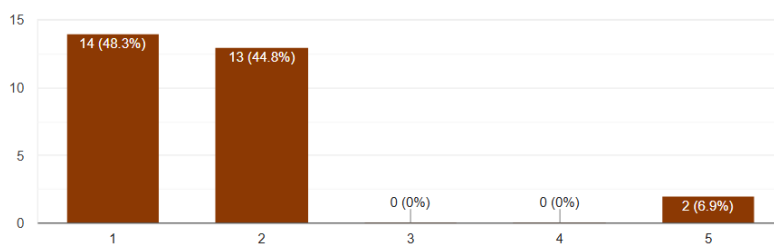
29 件の回答



ACP（人生会議）の基本的な考え方について、理解が深まりましたか

[グラフをコピー](#)

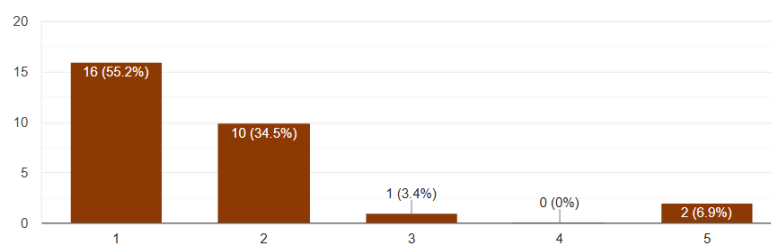
29 件の回答



研修会のテーマ（地域でのACP）は地域の課題として重要だと感じましたか

[グラフをコピー](#)

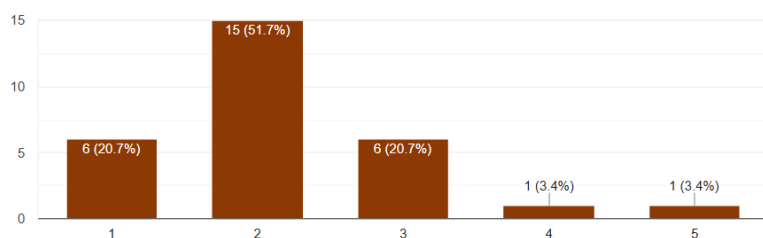
29 件の回答



ご自身がかわる場でACPを実践するために、何か行動を起こしたいと思いますか

[グラフをコピー](#)

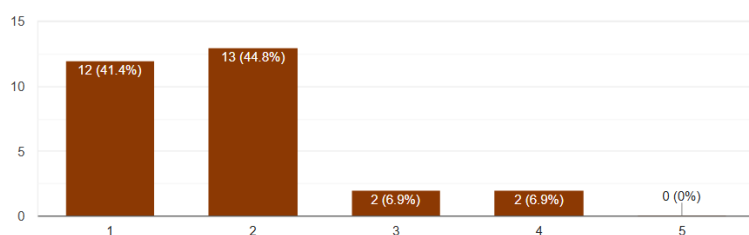
29 件の回答



全体全体として、この研修会に満足していますか

[グラフをコピー](#)

29 件の回答



以降、自由記載設問

★今回の研修会で最も印象に残った点、または最も参考になった点があればご記入ください

17 件の回答

- ・ACP を始めるタイミング
- ・今回は病院での事例だったので、他の業種の中での事例があれば良いかなと思いました。
- ・「本人」が自ら考えることであり、家族は家族の考えではなく、本人の推定意思に基づいて考える
- ・在宅、病院、施設などそれぞれのステージを支えるスタッフが連携して ACP サイクルを回していくお手伝いをする事の重要性について
- ・気がかりシート
- ・APC の考え方や本人とお話するタイミング
- ・ACP は難しいと思っていましたが、折りに触れ ACP サイクルを回していくことで、本人の望む最期への支援ができるような気がしました。
- ・さまざまな機会で、本人がどう生きたいか確認することがよいということ。
- ・ACP で必要なコミュニケーションスキルを、明日から活用したい。コミュニケーションが苦手で、患者が発した言葉をさらりと受け流してしまったと後悔し、成長したいと思っているスタッフに、伝えたいです。患者の表出した思いに、「それはどうしてですか」と聞くことから、患者の意思決定支援を始めることができると感じました。
- ・acp について、理解を深めることができたことが 1 番参考になった。
- ・意思決定は変わるということ。他者と関わることで本当の意思に本人が気づくこともあるということがわかった。
- ・コミュニケーション技法で(沈黙)(反復)を意識してとりくみたい。
- ・ACP のタイミングについて意識していきたい。

- ・患者さんが軸である事
- ・ACPの必要な基本コミュニケーション技術を今までも利用者との対話の中で使っているが、「反復」は使いやすいが「沈黙」は苦手を感じているため、改めて今後の参考にしようと思いました。
- ・本人の意思を尊重し、家族の意見に引っ張られない事という点ですが、最低限、キーパーとなる主介護者の意見は伺いたいなと感じました。
- ・パンフレットやリーフなどのツールがあると進めやすいと思うので、作成するのは労力がかかるので既存のものを広めていけるといいのかなと思いました
- ・最後、資料についてなかった各それぞれの対応的なところが参考になったため資料としてほしかった。

★今回の研修会で内容が不足していた点や、もっと詳しく聞きたかった点があればご記入ください

11 件の回答

- ・講義やグループワークが駆け足に感じたため、全体的にもう少し時間をかけられたらよかったと思う。
- ・グループワークの時間が短かった
- ・地域で各個人の acp をつなぐ、情報共有ツール
- ・10年以上前の話ですが、他市では認知症の方に個人ファイルにそれぞれ書き込みをしていました
- ・医療機関と地域との連携
- ・グループワークの時間が短かったです。②北空知でどうやって普及できるかをもう少し話し合いたかったです。
- ・介護申請の場面や入退院の機会の場面などに具体的に聞き取りやすいツール活用や、場面ごとの取り組み例などの事例がわかるとよいなと思いました。
- ・特に無し。
- ・「どのようにしたら北空知地域で普及できるか」のテーマについて各グループの話をききたかった
- ・すべて聴けました
- ・オンライン参加のため、途中何度か音声の聞き取りにくさがありました。
- ・気がかりシートはなんとなくやり方はわかったが、どのような感じで展開していくのかももう少し知りたかった。

★今後、この研修会で取り上げて欲しいテーマや研修の方法について、何かあればお書きください

8 件の回答

- ・ACP については、医療者や地域の職種での理解や連携を必要とするため、研修会は継続した方が良くと思う。
- ・嚥下障害とACPに興味あり
- ・今回の研修会を受けて、今後地域で何ができるか
- ・身体拘束最小化の取り組み、在宅看取りについて
- ・ACP の事例検討や研修をしたい、
- ・身寄りのない患者の対応
- ・緩和ケア、身元保証人不在問題
- ・コミュニケーション技法(SDM)など

★研修全体を通してのご意見・ご感想をお書きください

13 件の回答

- ・事例を元にとってもわかりやすい講義でした。
- ・ありがとうございました。
- ・集合での研修会は、グループワークもスムーズで、顔見知りになる機会でもあるため、是非継続して欲しいです。
- ・ケアマネという職種から、ACPIについて考える、実行するというまでには至っておらず、受け身の状態であった。
- ・まずはACPとはなんぞやと知ること、考えることができる機会となったため、今後はケアマネとして日常から本人の気持ち、考えなどを引き出せるような関わりをしていけたらと思いました。
- ・北空知での連携や取り組み状態を知る機会があれば良いと思いました。
- ・せっかくのグループワークの時間が短く残念でした
- ・研修準備お疲れ様でした。地域で暮らす人たちを支える職種として、とても大事な内容でした。ありがとうございます。
- ・小さな町では町内の施設に入りたいと希望する方が多いですが、施設に入ってどんな生活がしたいかが意思なのかなと感じました。
- ・初回面接、担当者会議などで意識して取り組みたいと思っています。
- ・本人が話しやすいように仕向けたいです。
- ・web で全体的に話が聞きにくかったのが、次回は絶対会場に足を運ぶようにします。ありがとうございました。
- ・話しが、わかりやすかった。グループワークの時間が、ちょっとみじかかった。みんなの話ももう少しききたかった。
- ・どうもありがとうございました
- ・今後に活かせる研修でした
- ・研修受講するまで ACP についての知識があまりなかったので、今回の研修通して知識を得ることが出来ました。
- ・貴重なお話を伺い、勉強させて頂きました。有り難うございました。自分の母親はまだ健在ですが、仕事上家族より関わっている利用者を優先に考えてしまっています。元気だからと思わずに、元気なうちに本人が最期をどう迎えたいか聞いておくのも必要なかなと感じています。
- ・合同の研修会で色々な職種の方がいてよかったが、時期的に参加できない職種もいる気がしたので日程に配慮が必要かと思った。

1. 総合的な評価

「今後に活かせる研修だった」という意見が多く、特に ACP(アドバンス・ケア・プランニング)に関する知識を深め、業務への意識改革につながった点が評価された。

講義は「事例を元にとてもわかりやすい講義だった」というコメントが多く集合形式での研修会は、多職種との「顔見知りになる機会」として継続的な実施が強く求められている。

2. 研修を通じて具体的に得られたこと

意思決定は変わり得ること、そして ACP が「本人」の意思を尊重し、家族の意見に引っ張られないことの重要性を再認識する ACP の本質が理解され、「気がかりシート」や ACP を折りに触れサイクルを回していくという概念を理解し、初回面接や担当者会議など日常の業務で活用したいという具体的な意欲が見られた。

支援を行っていくために「沈黙」や「反復」といった基本技法、そして SDM(共同意思決定)の必要性が明確になった。

3. 課題点

参加者からの最も明確な不満点は、グループワークの時間が短かったことで「講義やグループワークが駆け足に感じた」「みんなの話ももう少し聞きたかった」という意見が寄せられた。

その他、Web 参加者から「音声の聞き取りにくさ」が報告されており、オンライン配信環境の改善が必要であるという意見と合同研修の開催時期によっては参加できない職種がいる可能性があり、開催時期の再検討が求められる。

4. 今後の研修で取り上げてほしいテーマ

(1) ACP の関連領域

コミュニケーション技法: SDM(Shared Decision Making:共同意思決定)

専門領域: 嚥下障害と ACP、緩和ケア

(2) 地域特有の倫理的・実務的課題

身元保証人不在問題

身寄りのない患者の対応

身体拘束最小化の取り組み

在宅看取り